



ラーチャブルック โรงเรียน

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

令和4年度
第6号

<https://www.tjasac.th>
小学部第1職員室
02-314-7334
小学部第2職員室
02-369-2751
小学部第3職員室
02-369-2750
中学部職員室
02-314-7335

教頭 小川 雅弘

学校で学ぶということ

いよいよ2学期がスタートしました。1学期よりは新型コロナウイルス感染状況も落ち着いてきた感があり、子供たちも勉学に、運動に元気いっぱい励んでいるところです。昨年度、多くの授業をオンラインで実施していたことと比べると隔世の感があります。

さて、本日のタイトルは「学校で学ぶということ」としました。少し堅苦しい題目で申し訳ありませんが、しばらくお付き合いください。

私はもともと中学校の社会科の教師です。今から30数年前、30歳台になって本格的に社会科の教授法について研究を始めました。当時、私に指導してくれた先輩教師から、社会科で何を教えるのかについてよく話を聞きました。以下は彼の教えです。

「学習指導要領（学校で教える教科内容の指針となるもの）の社会科の目標には『…平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を…育成することを目指す』とある。平和で民主的であるということは、すれ違いや問題が起こった時に、武力や暴力、威嚇といったことなく、話し合いですべて解決するということである。だから、社会に出る前に、学校の授業の中で、意見を述べる、人の意見を聞く、人の意見を尊重し、また考え、自分の意見をもつといった練習をさせることが必要である。このことが実現できている学級であれば、生活指導など学級経営も十分にできているはずだ。」

このような指導を受けて、それ以来、私の社会科の授業では話し合いを中心に授業を行うようになりました。

話し合うことを大切にするということは、現在にも通じることです。以前、経団連が「グローバル人材育成に向けた提言」の中で、産業界がグローバル人材に求める素質、能力について「社会人としての基礎的能力に加え、既存概念に捉われず、チャレンジ精神を持ち続ける姿勢、外国語によるコミュニケーション能力、海外との文化、価値観の差異に対する興味・関心などが重要」と述べています。いろいろな要素が盛り込まれていますが、私が最も注目するところは文化や価値観の差を理解しつつ他を尊重して話し合うことができる能力が必要とされているところです。

学校の良さはたくさんの子供が通ってきているところにあります。学校では、授業中、休み時間に関わらず、同年代の子供たちと話し合いながら、意見を聞いて相手の立場を理解したり、自分の考えを述べたりしています。意見のすれ違いも起こると思いますが、話し合う中で解決を試みています。この繰り返しの子供たちのコミュニケーション能力や多様な思考力、思いやりの心などの育成に大きく関わっていると思います。まさに、学校という集団の中で、社会に貢献する大人になるための練習をしているのです。

今、改めて子供たちが学校に通って学習ができる環境になってきたことに感謝しています。保護者の皆様におかれましても、学校での活動に対し、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。